

『国際政治』202号「1930年代の国際秩序構想」（仮題）

『国際政治』202号では、両大戦間期の中でも国際秩序の動揺が鋭敏に感得されるようになっていく1930年代の国際秩序構想に焦点を当て、多様なオルターナティブや「失われた機会」の可能性、国際政治学の誕生を含めた思想的なインパクトや遺産といった点を多面的に検討したいと思う。刊行予定の2020年は東西冷戦終焉から30年の節目の年となるが、ポスト冷戦期の国際秩序はなお揺らいだままで、1930年代の危機的状況との類似を指摘する見方もある中、この時期の歴史を本格的にふり返る意義は大きいと考えるからである。

大恐慌が世界大に波及していき、「もてる国」がブロック経済化による苦境脱出を図る中、日本やドイツなどの「もたざる国」は次第に追い込まれ、ヴェルサイユ体制やワシントン体制といった米英主導の国際秩序に挑戦する姿勢を強めた。20年代後半にはロカルノ条約、不戦条約、「欧州連邦秩序」のブリアン提案・・・と国際協調主義の成果を積み重ねた国際連盟のプレゼンスは大きく後退し、連盟を脱退した日本、ドイツ、イタリアは各々の「新秩序構想」に邁進していく。但し、各国の「新秩序構想」にも路線対立があり、また、「もてる国」の側にもより安定した国際秩序の構築を目指す議論があったのは周知の通りである。

そうした多様な1930年代の国際秩序構想について、最新の歴史研究の成果を踏まえつつ、(1) 国際組織の位置づけ、(2) フォーディズムの影響や経済体制の考慮、(3) 国際政治とのリンケージ、の3点も比較検討し、各構想の異同や相互作用を明らかにし、現在への教訓や示唆を得たいと考えている。

もっとも、脱植民地化が達成され、核兵器をはじめとする大量破壊兵器が溢れ、ICTによるグローバル化が加速度的に進行する現代の国際政治は、1930年代とは質的に異なるかもしれない。それでもなお、「未完」の国際秩序構想が各国・地域の「外交空間」に及ぼし続けている基底的影響には大きなものがあると思う。

なお、本特集の中心は、外交史研究、思想史研究、歴史研究となると思われるが、上記の関心を共有し1930年代の時代特性を明らかにしようという研究ももちろん公募の対象となる。

論文の応募を希望される会員は、論文のテーマと要旨を600-800字程度にまとめ、自宅・勤務先の住所・電話・ファックス・メールアドレスを明記して、2019年8月31日（期限厳守）までに、下記の編集責任者にメールでお送り下さい。テーマとの関係、本特集号の全体構成などを総合的に検討したうえで、執筆をお願いする方には、2019年9月30日までに御連絡いたします。なお、論文の最終締め切りは、2020年2月29日、論文の分量は註を含めて必ず2万字以内とします。ご提出いただいた論文は、2名以上の査読者による査読の対象となります。修正を含め、最終的な掲載の可否は査読後に決定しますので、この点を含めてご了承下さい。

執筆要領については、学会ウェブサイトをご参照下さい。要領を遵守してのご執筆をお願い

いします。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お申し込みやお問い合わせは、以下の編集責任者までお願いいたします。

《編集責任者》 戸澤 英典

《連絡先》 〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1 東北大学法学研究科

Tel.: 022-795-6216 (研究室) , Fax : 022-795-6249 (代表)

E-mail: tozawa★law.tohoku.ac.jp (★を@に置き換えてください)